

第59回伝道研究会（6月28日）

「オーストラリア伝道における文化活動」

天理教伝道の全般について議論検討するために始められ伝道研究会では、コンゴや中南米の天理教伝道、またアメリカスの日系宗教など取り上げてきたが、現在は「海外伝道における文化活動」をテーマとして、実際に伝道の現場で文化活動に携わっていた人たちに活動の様子や課題、また伝道との関わりなどについての議論などを行っている。

このテーマとしては5回目となる研究会では、オセアニア出張所の前所長である足立正文氏が、同出張所で展開されているさまざまな文化活動を紹介した。

はじめに、オーストラリアの歴史や地理的な背景を概観し、社会における日本観や日本人観に触れ、日本文化に関わる活動の意義を確認した。その後、オーストラリア地域の伝道の歴史を振り返り、その中で設置されたオセアニア出張所の役割などを説明。そしてその出張所で展開されるさまざまな文化活動を、映像を通して紹介した。日本語教育をはじめ、「子供おとまり会」での活動（剣玉、折り紙、盆踊りなど）や地域の恒例行事として定着した夏祭り、また雅楽のコンサートや敷地内に設けられた日本庭園、あるいは華道や茶道など、多岐にわたる活動を通じて、多くの人たちが集う様子をうかがうことができた。最後に行われた質疑応答では、オーストラリア伝道における文化活動の意義、役割が確認されたと同時に、これからの伝道におけるさまざまな課題が浮き彫りになった。（記：森洋明）

京都大学「震災と語り」シンポジウム（7月9日）に

指定討論者として参加

金子 昭

京都大学稲盛財団記念館にて標記テーマのシンポジウムが開催され、私も指定討論者の1人として参加した。このシンポジウムは、同大学こころの未来研究センター主催による東日本大震災関連シンポジウム「こころの再生に向けて」の第4回目に

あたる。

こころの未来研究センターでは、鎌田東二教授を中心として、2011年4月からこの一連の研究プロジェクトを展開しており、私もその当初から関わってきた。今回は、震災後に被災地で広まった怪異現象（幽霊）をめぐる語りを宗教者がどう受け止めるか、宗教学、民俗学、心理学等の立場から発題と討議が行われ、約150名が参加・聴講した。

鎌田氏の趣旨説明の後、基調報告①「震災後の幽霊の語り」と民俗」では、高橋原・東北大学准教授、そして鈴木岩弓・東北大学教授がそれぞれ宗教学、宗教民俗学の立場から発題。高橋氏は、宗教者ならではの死者供養や除霊などについて、スピリチュアルケアとの関連において分かりやすく論点整理を行った。鈴木氏は、遺体安置所だった総合スポーツ施設での怪異現象の話が歌手のコンサートによって聞かれなくなった話を紹介しながら、そのような祝祭空間が持つ力と機能について考察した。

この後、河合俊雄・こころの未来研究センター教授による臨床心理学からの短いコメントがなされ、基調報告②「喪失の語り」に移った。ここでは、やまだようこ・立命館大学特別招聘教授が発達心理学の立場から、喪失体験をした人が語り直しを通じて負の体験から立ち直るプロセスについて報告を行った。

最後の基調報告③「震災とグリーンケアの語り」では、島蘭進・上智大学グリーンケア研究所所長が、日本におけるグリーンケア研究の歩み、またそこでの宗教の役割について発表。宗教とは悲しみを力に変える装置であると訴えた。

以上4つの発題を踏まえ、井上ウィマラ・高野山大学教授がスピリチュアルケアの立場からコメントを述べた後、総合討議の部に入った。そこで指定討論者として私と稲場圭信・大阪大学准教授の両名が、それぞれ倫理学・人間学、宗教社会学の立場から、幽霊という表象で語られる語りの持つ意味やそこに垣間見られる喪失体験への心のケア等について、全体を概観してのコメントと問題提起を行った。引き続き、フロアも交え活発なやり取りがなされ、全体してとてもユニークな学際的シンポジウムとなった。

平成25年度 公開教学講座開催のご案内

信仰に生きる 『逸話篇』に学ぶ（2）

4月25日（木）19 「子供が羽根を」	佐藤浩司（終了）	10月25日（金）8 「一寸身上に」	宮田 元
5月25日（土）18 「理の歌」	岡田正彦（終了）	11月25日（月）5 「流れる水も同じこと」	辻井正和
6月25日（火）21 「結構や、結構や」	佐藤孝則（終了）		
8月25日（日）28 「道は下から」	金子 昭		
9月25日（水）15 「この物種は」	森 洋明		

場所：天理教道友社6階ホール

時間：13:00～14:45

*お車での来場はご遠慮下さい。

グローバル天理

第14巻 第8号（通巻164号）

2013（平成25）年8月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 深谷忠一

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan